



平成31年1月22日

## 平成30年度第9回定例記者会見

日時：平成31年1月22日（火）11:00～12:00

場所：豊橋技術科学大学事務局3階 大会議室

### <記者会見項目>

- ① 平成31年の抱負  
【学長 大西 隆】（別紙1参照）
  
- ② 豊橋おにまつり鬼トラッキングシステム  
「おにどこ」の実施について  
【情報・知能工学系講師 大村 廉  
建築・都市システム学系講師 水谷 晃啓】（別紙2参照）
  
- ③ 豊橋技術科学大学 未来ビークルシティリサーチセンター第22回シンポジウム  
未来ビークル都市を創造する鍵：ワイヤレス電力伝送 開催のお知らせ  
【未来ビークルシティリサーチセンター】（別紙3参照）
  
- ④ 豊橋技術科学大学エレクトロニクス先端融合研究所  
平成30年度EIIRISプロジェクト研究成果報告会  
「感性×センサー ー感性工学とエレクトロニクスの出会いー」 開催のお知らせ  
【エレクトロニクス先端融合研究所（EIIRIS）】（別紙4参照）

### <本件連絡先>

総務課広報係 前田・高柳

TEL:0532-44-6506 FAX:0532-44-6509

年頭あいさつ

2019年1月 学長 大西 隆

新年明けましておめでとうございます。今年は全国的に好天のお正月で、豊橋やふるさとなど各地でお正月を過ごした皆さんも、穏やかな陽光に包まれて、十分に英気を養うことができたのではないかと推察します。

一方で、大学では、新年は年度の最終盤であり、学生諸君の研究指導、自身の研究のまとめ、あるいはそれぞれの職場での業務のまとめなどで忙しい日々がすぐ始まります。気分を新たに、それぞれの役割を果たしていただくようお願い申し上げます。

昨年の秋から暮れにかけて、メディアなどで、盛んに大学、特に国立大学を巡って国や行政からの厳しい声が伝えられました。日本の大学を中心とする研究成果が国際的にみて十分に向上していない、あるいはその要因として大学間の競争が足りないことが挙げられるといった内容です。確かに、留学生が世界的に増加していることに示されるように、学生の流動化が進み、探求心や向上心あるいは知的好奇心のある学生は何処で何を学ぶのかに関心を持ち、自分を最も成長させてくれる大学を国際的視野で選ぶようになってきている中で、独自性に拘る日本人の性向が進歩を遅らせている嫌いがあったのは否めません。国際的な競争の中で、大学やその研究者が鍛えられ、教育内容や研究成果がより優れたものになっていくという、国際化の積極的な側面を再認識する必要があります。

その意味で、本学はこうした厳しい声をしっかり受け止めて、世界の中で評価される大学を目指していかなければならないと思っています。

改めて振り返れば、本学は国際的に高い水準の教育機関であることを目指してきました。バイリンガル講義の普及はそのための手段の一つです。工学の高度な知識を、国際的なコミュニケーション能力とともに身に着けることを進めてきました。そのことは、昨年、本学のスーパーグローバル事業にS評価が与えられるという形で評価されました。さらにこれを進めて、日本のみならず、アジアをはじめとする世界の高校生や高専生が、本学に注目し、本学を目指すよう努力していきます。

研究においても、大学間の協定や共同研究、様々な研究交流によって、研究者の世界的なネットワークが発展しています。また、国際的に活躍する地域の企業と強く結びついて、研究開発を進め、大学の研究成果が企業によって実用化され、世界の人々に役に立つといった構図も次第に定着してきているのではないのでしょうか。互いに刺激を与え合い、学び合うという研究者間の横のつながり、基礎から応用、更に実用に至る研究者と企業との縦のつながりをそれぞれ強めて、本学の技術科学がより高く評価されるように努力する必要があります。

また、大学を舞台にした、地域の方々との交流、あるいは地域の様々な活動に参加して

の連携も、センシング技術、シミュレーション技法、技術科学を生かした農業の高度化、地域の防災・減災力の向上、全く新しい発想による移動手段の革新等、多くの分野で進んでいます。

今年、これら技術科学の成果を、世界の貧困、食糧や水不足の改善、都市問題の解決、環境悪化や地球温暖化問題の解決といった、世界の人々が共通して抱える問題への対処という観点から位置づけ直し、「持続可能な開発目標」へのチャレンジという、より高い使命感の下で進めていきたいと思えます。

こうした考えの下で、学長として、今年、是非取り組んで進展させたいテーマについて述べます。

まず、第1に、国が提示する3つの事業にチャレンジして採択を目指します。ひとつは、昨年惜しいところまでいった、「国立大学改革強化推進補助金による国立大学経営改革促進事業」です。本学と長岡技術科学大学、さらに高等専門学校との研究、教育にわたる連携を強めて、その成果を様々な企業との共同研究を通して実用化していくという構想にさらに磨きをかけて、再度応募するつもりです。また、本学で行っている博士課程教育リーディングプログラムを発展させて卓越大学院プログラムに応募します。その中で、博士課程全体の改組、発展を図り、大学等の研究機関でも、企業でも活躍できる高度に専門的で、かつ情報科学等の汎用的な知識を共通して身に着けた博士人材を育成していきます。さらに、昨年度採択された OPERA（産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム）を更に深めることによって、センシングとその応用分野で先行的に企業との連携を強めて、本格フェーズへの発展を図ります。

第2に、高等専門学校との連携の一層の強化です。高専は、技術科学分野における英才教育のシステムです。本学は、これと全面的に連携して、質的向上を図るために努力を惜しみません。昨年末に、高専専攻科と大学のカリキュラムを結びつける「共同教育プログラム」の制度化が正式に決まり、プログラムを全うした専攻科卒業生に本学の学士号を授与できる道が拓けました。もちろん、本学としては3年次編入を主たる受け入れのプログラムとしますが、毎年1500人に達している高専専攻科進学者に対しても、その意欲的な学生に高質の大学教育の機会を提供するプログラムを信頼関係の強い高専と協働で実施して、専攻科教育の充実、更には大学院進学者の受入を図っていきます。

第3に、産学連携に関連した、企業との共同研究の推進とそのためのブリッジ体制の強化です。これまで実施してきたイノベーション協働研究プロジェクトをさらに充実させ、長岡技術科学大学や高専機構の研究者との連携も織り込みます。これによって企業からみて、より層の厚い、充実した研究陣との共同研究ができることとなります。もちろん本学が引き受ける分は、本学が責任を持って、共同研究の運営や管理に当たります。このため、大学間、大学と企業を繋ぐ活動がより重要となります。RACを更に強化することとし、現在のURA（大学リサーチアドミニストレーター）とCD（産学連携コーディネーター）とを「大

学と企業・社会とを結びつける役割を持つ専門家」として再構成し、企業で培った経験や能力を生かしたり、研究者、研究テーマや成果の位置を探求する分析力を高めたり、本学の研究成果の社会還元のあるべき姿を探求したりする役割を担う本学に必須の組織として発展させます。

第 4 に、男女共同参画、外国での研究や実務を経験した方々の登用を進めます。特に研究者の採用に当たっては、公募が重要な手段であることは言うまでもありませんが、応募をただ待つだけではなく、積極的に人材を発掘して、応募を促す積極的な人材開拓精神を発揮したいと思います。加えて、こうした本学の活動を社会にきちんと伝える役割を担う広報活動を重視し、透明性の確保、社会的責任の自覚を更に高めていきます。

第 5 に、学生の活動を積極的にサポートして、学生諸君が知識の吸収、研究の実践、実務体験に加えて、学生時代という青春の貴重な時期を生かして、スポーツや文化に積極的に触れ合うことができるようにします。例えば、弓道部の活動拠点として学内に弓道場を新設します。ロボコン同好会には、工作機械設備を新調し、ロボット製作に一段と磨きをかけてもらいます。野球部にはバッティングマシンを新調し、打撃術の向上を図ります。吹奏楽団には楽器の充実を図ります。学生が利用できるトレーニング施設の充実を図り、自ら身体能力の強化を図れるようにします。これらを含めて、学生諸君の協力を得て、課外活動への積極的な参加を促すため様々な試みを強めます。

また、学生の様々な悩みごとの相談に対応する体制も引き続き強化し、青年期の学生が専門家の支援を受けながら、成長していけるようにサポートしていきたいと考えています。

以上が、年頭に当たり、私から申し上げたいことです。それでは、今年 1 年、健康に留意して、ご活躍下さい。



平成31年1月22日

豊橋鬼まつり鬼トラッキングシステム  
「おにどこ」の実施について

<概要>

昨年、豊橋鬼まつりにおいて、鬼トラッキングシステム「おにどこ」の実証実験を行い、大変好評をいただきました。本年も引き続き、2月11日におにまつりにおいて、「おにどこ」の実証実験を行います。是非、積極的にご利用下さい。

<詳細>

昨年、豊橋鬼まつりにおいて、鬼トラッキングシステム（鬼の位置を観客のスマホ上で確認できるようにするシステム）の実証実験を行ないました。結果、豊橋市内だけでなく、名古屋、大阪、東京などからを含め、述べ2,000名の方々からご利用戴きました。また、システム上で行ったアンケートには200名以上の方々からご回答戴き、「便利だった」（93%）、「祭りを楽しむのに役立つ」（94%）と大変好評を戴きました。さらに、「来年度、おにどこを使用したいと思う」（95%）、「今後もこのような取り組みを続けるべき」（86%）とも戴いております。

このようなアンケート結果、並びに、地域行事におけるIT利活用の研究をさらに進めるべく、今年も、2月11日（15:00～24:00を予定）に、「おにどこ」の実証実験を行います。昨年度から、使い勝手の向上（地図上で鬼の位置を中心に固定する機能など）や研究の推進を目指してシステムを改定し、スマホ向けには専用のアプリケーションとして配布する予定であります。

皆様には、是非、積極的にご利用戴くとともに、アンケートにご協力下さい。

<「おにどこ」実施体制>

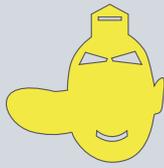
主催：豊橋技術科学大学 ユビキタスシステム研究室（大村研究室）、  
豊橋技術科学大学 建築設計情報学研究室（水谷研究室）、  
株式会社ウェブインパクト  
協力：安久美神戸神社、豊橋鬼祭保存会、Code for MIKAWA

本件に関する連絡先

担当：豊橋技術科学大学 大村 廉講師・水谷 晃啓講師  
連絡先：0532-44-6750、ren@tut.jp（大村）  
0532-44-6831、mizutani@ace.tut.ac.jp（水谷）  
広報担当：総務課広報係 前田・高柳 TEL:0532-44-6506



# おにどこ



どこ？

アンケート

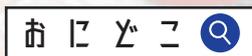


ここをタップ！  
アンケートへのご協力をよろしくお願いします。

# おに どこ

今年はスマホアプリでもおにどこをお楽しみ頂けます！

2019.2.11.  
15:00 ~  
実証実験開始予定



o2doko.com

## 注意事項

- ・本アプリケーションは研究および街なか活性化を目的としており、「無料」でご利用いただけます。尚、本アプリケーション利用に発生する通信料は利用者様のご負担となります。
- ・赤鬼や天狗の位置情報は実際の位置と異なる場合がございます。
- ・本アプリケーションの利用に係る（個人を特定しない）情報を収集し、本研究（学会発表を含む）および今後の街なか活性化の目的に限り利用させていただきます。
- ・端末の種類や当日の通信混雑状況などにより、ご利用頂けない場合がございます。

本活動資金をクラウドファンディングで募集しています。  
上記 Web ページより、募集サイトへのリンクがあります  
ので、是非、ご協力お願いいたします。

# アプリ説明

鬼にスマホ！「豊橋鬼祭」をもっと楽しみたいなら「おにどこ」を是非ご利用ください。  
赤鬼と天狗が今どこにいるかをお手元のスマートフォンで無料でご覧いただけます！

## アプリで何ができるの…！？

-  赤鬼と天狗はどこ？
-  どこを通るの？
-  いつ通るの？
-  お祭り便利情報
-  ターゲットモード！  
赤鬼天狗を自動追尾！

赤鬼と天狗が今どこにいるかをマップ上でご覧頂けます。

赤鬼と天狗の移動予定のルートが表示されます。

赤鬼と天狗が立ち寄る場所と時間が確認できます。

駐車場、交通規制、公共機関の情報が確認できます。



※画面はイメージです。実際の画面とは異なる場合がございます。



「豊橋鬼祭」の由来はこちら！

<https://padlet.com/akumikanbe/onimatsuri>

豊橋に春の訪れを告げる安久美神戸神明社の例祭「豊橋鬼祭」祭事のハイライトでもある「天狗と赤鬼のからかい」が行われます。  
赤鬼と天狗が境内で闘いの末、敗れた赤鬼が償いにタンキリ飴と白い粉（小麦粉）をまきながら境外へと飛び去り街を練り歩くもので、古来よりこの粉を浴び、飴を食べると厄除となり夏病みせぬといわれます。

## 豊橋鬼祭

## 実証実験

IT/IoT 技術を用いた街づくりの一環として、豊橋技術科学大学の  
大村研究室、水谷研究室、株式会社ウェブインパクトが共同で豊橋鬼祭用アプリ「おにどこ」を開発いたしました。

この取り組みは、研究としてだけでなく、街なか活性化、地域活性化の先端的な取り組みとして、日本全国だけでなく世界へ発信し、豊橋や豊橋鬼祭の活性化につなげていきたいと考えております。ぜひ、「おにどこ」アプリをご利用いただき、アンケートにお答え戴ければと思います。





# 未来ビークル都市を創造する鍵： ワイヤレス電力伝送



放送、通信に次ぐ新しいワイヤレスマーケット「無線電力伝送」が今、生まれようとしています。この技術は、電子機器のバッテリーがケーブル無しで充電できるようになるだけでなく、自動車や輸送機器さえも無線で充電できるエポックメイキングな未来ビークル都市を実現します。

本シンポジウムでは、このような未来の創造に向けて最先端で活躍されている方々にご講演頂き、その現状と将来について議論します。

平成**31**年

**2月15日** **金**

**13:30~16:30**

**豊橋技術科学大学**

**A 講義棟 A114**

(愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1)

**参加費  
無料**

**懇親会  
2,000円**

## 講演者

- 豊橋技術科学大学  
未来ビークルシティリサーチセンター長 大平 孝
- 株式会社 UL Japan  
コンシューマーテクノロジー事業部  
技術サポートグループ R&D チーム・シニアエンジニア  
花澤理宏氏
- 名古屋工業大学  
大学院工学研究科 教授 平田晃正氏
- 株式会社デンソー  
工機部 モジュール改革推進室 先進技術開発課  
杉野正芳氏
- 豊橋技術科学大学  
電気・電子情報工学系 准教授 田村昌也

主催： 豊橋技術科学大学 未来ビークルシティリサーチセンター

後援： 豊橋市、田原市、東三河経済広域連合会、東三河産業創出協議会



お問合せ  
申込先

豊橋技術科学大学 未来ビークルシティリサーチセンター（研究支援課センター支援係）  
TEL：0532-44-6574 FAX：0532-44-6568  
e-mail：rcfvc@office.tut.ac.jp

★裏面の参加申込書で事前にお申し込みください

# プログラム

**13 : 30~13 : 35 開会挨拶**

豊橋技術科学大学 未来ビークルシティリサーチセンター センター長 大平 孝

**13 : 35~14 : 05 講演 1**

「高周波電力伝送理論」

豊橋技術科学大学 未来ビークルシティリサーチセンター センター長 大平 孝

**14 : 05~14 : 35 講演 2**

「モバイルおよび EV 向け WPT の規制と規格」

株式会社 UL Japan

コンシューマーテクノロジー事業部 技術サポートグループ

R&D チーム・シニアエンジニア 花澤理宏氏

**14 : 35~15 : 05 講演 3**

「無線電力伝送システムからの電磁界安全性」

名古屋工業大学 大学院工学研究科 教授 平田晃正氏

**15 : 05~15 : 20 休憩**

**15 : 20~15 : 50 講演 4**

「工場内向けワイヤレス給電技術」

株式会社デンソー 工機部 モジュール改革推進室 先進技術開発課 杉野正芳氏

**15 : 50~16 : 20 講演 5**

「人の手が届かない設備内・装置内・水中でのワイヤレス電力情報伝送」

豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 准教授 田村昌也

**16 : 20~16 : 25 閉会挨拶**

豊橋技術科学大学 未来ビークルシティリサーチセンター センター長 大平 孝

**17 : 00~18 : 30 懇親会 (学内喫茶)**

## 参加申込書

★以下の内容を F A X または e-mail でご連絡ください。

お名前		所属/役職	
TEL		FAX / e-mail	
懇親会 (参加費 : 2000 円)	参加 ・ 不参加 (どちらかを○で囲んで下さい)		

【申込先】 未来ビークルシティリサーチセンター (研究支援課センター支援係)

**FAX : 0 5 3 2 - 4 4 - 6 5 6 8 e-mail : rcfvc@office.tut.ac.jp**

**参加申込〆切 : 平成 31 年 2 月 8 日 (金)**

\*ご記入いただいた情報は、豊橋技術科学大学からの各種連絡・情報提供のために利用することがあります。





**高橋 雅人** DIC株式会社 新事業統括企画管理部 兼 先進評価解析センター マネージャー

1985年 上智大学理工学研究科応用化学専攻 博士前期課程修了  
工学修士  
1985年 大日本インキ化学工業株式会社(現 DIC) 入社  
スチレン系樹脂の物性評価, 成形加工シミュレーションをスタート  
にポリマ合成, 計算化学, データ解析等の研究に従事。労働組合専従,  
企画管理, 海外子会社管理, 技術企画を経て, 2012年から先進評価

解析センター主席研究員として感性評価を担当。現在に至る。  
豊橋技術科学大学中内研究室と系統だったサンプルによる質感に関  
する共同研究を実施中  
2016年 “ソフトな触りを付与するニスの開発” で, 日本印  
刷学会技術奨励賞受賞



**坂本 真樹** 電気通信大学大学院 情報理工学研究科 教授

1998年 東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻博士課程  
修了(博士(学術))。1998年 東京大学助手, 2000年 電気通信大  
学講師, 准教授を経て, 2015年より同大学院情報理工学研究科  
教授。同大人工知能先端研究センター副センター長を兼務。人工知  
能学会理事。国際会議でのベストアプリケーション賞や人工知能学  
会論文賞など受賞多数。言葉と感性の結びつきに着目した文系的な

現象を, 理工系の観点から分析し, 人工知能に搭載することが得意。  
著書に「坂本真樹先生が教える人工知能がほほほわかる本」(オー  
ム社), 「坂本真樹と考える どうする? 人工知能時代の就職活動」  
(エクシア出版), 「感性情報学—オノマトベから人工知能まで—」(コ  
ロナ社) などがある。オスカープロモーション所属(業務提携)で  
メディア出演多数。



**中内 茂樹** 豊橋技術科学大学 情報・知能工学系 教授

1993年, 豊橋技術科学大学大学院博士後期課程修了。  
現在, 豊橋技術科学大学情報・知能工学系教授。  
2017年より東フィンランド大学 Docent (School of Computing),  
2018年より日本学術振興会専門研究員(情報学分野)。  
色覚, 質感認知などの視知覚や視覚認知機構に関する基礎研究とと

もに, 視覚科学に裏付けされた視覚技術(機能性光源, スペクトルイ  
メージング)に関する研究に従事。2011年 文部科学大臣表彰, 経  
済産業大臣賞受賞。工学博士。



**澤田 和明** 豊橋技術科学大学 電気・電子工学系 教授

1991年, 豊橋技術科学大学大学院博士後期課程修了。  
現在, 豊橋技術科学大学電気・電子情報工学系教授。同大学エレクト  
ロニクス先端融合研究所長。マルチモーダルバイオイメージセンサ  
研究会会長。  
イオンの動きを見ることができるバイオイメージセンサ, 農業・畜

産応用を目指したマルチモーダルセンサ, Micro-TAS に関する研究  
などに従事。  
2013年 文部科学大臣表彰。工学博士。



**高尾 英邦** 香川大学 創造工学部 教授/微細構造デバイス統合研究センター長

1991年 高松工業高等専門学校 電気工学科卒業,  
同年 豊橋技術科学大学 工学部 電気・電子工学課程 3年次編入学,  
1998年 豊橋技術科学大学大学院 博士後期課程修了, 博士(工学),  
2014年 香川大学 工学部 知能機械システム工学科 教授,  
2018年 改組により香川大学 創造工学部 機械システム工学領域 教授

先端医療用新機能集積型マイクロセンサと活用の研究, 繊細な触覚  
を定量的に検知する「ナノ触覚神経網」の開発と各種手触り感計測  
技術へ応用, 集積化微細構造デバイス技術による臨床医用マイクロ  
センサの研究開発などに従事



**富岡 仁** Telexistence Inc.  
Co-Founder & CEO/ 共同創業者 兼 最高経営責任者

スタンフォード大学経営大学院修士。  
2004年に三菱商事入社。海外電力資産の買収などに従事。  
2016年にジョン・ルース元駐日大使らとシリコンバレーのグロー  
スキャピタルファンド「Geodesic Capital」を組成し, Snapchat や  
Uber などへの投資を実行。



**水品 友佑** Telexistence Inc.

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科修士課程  
修了。  
学生時代より触覚分野の研究開発に従事。  
現在は Telexistence 株式会社において触覚センサお  
よび触覚ディスプレイの開発を担当。

(敬称略)

平成30年度 EIIRISプロジェクト研究成果報告会

お申し込みは、ホームページ、E-mail または FAX で。  
URL <https://www.tut.ac.jp/survey/form/symposium/>  
E-mail [event-office@eiiris.tut.ac.jp](mailto:event-office@eiiris.tut.ac.jp)  
FAX 0532-44-6974

申込期限  
2019年2月13日(水)

お問い合わせ先  
国立大学法人豊橋技術科学大学 研究支援課センター支援係  
〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘 1-1  
☎ 0532-44-6574

FAXでのお申し込み用紙 必要事項ご記入の上、右記番号まで FAX してください。 **FAX 0532-44-6974**

ご氏名(フリガナ)	ご連絡先電話番号
	FAX 番号 / e-mail アドレス
ご所属・職名	